

学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和3年9月30日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
10月16日（土） 13：30～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」
10月17日（土） 13：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「教育データの利活用の動向と社会への展開」
10月23日（土） 13：30～17：00	オンライン開催	学術フォーラム コロナ禍を共に生きる＃3 「パンデミックに世界はどう立ち向かうのか ～国際連携の必然性と可能性～」
10月28日（木） 13：00～16：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「生命科学分野におけるジェンダー・ダイバー シティー大学における女性リーダーから見た 課題と展望」
10月30日（土） 13：30～16：30	オンライン開催	東北地区会議公開学術講演会 「災害と文明－災害に対する社会の対応－」
10月30日（土） 13：30～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「歴史教育シンポジウム「歴史総合」をめぐっ て（5）－「歴史総合」の教科書をどう作った か－」
10月31日（日） 14：00～17：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「子ども政策の総合化について考える」
11月1日（月） 14：00～16：10	オンライン開催	九州・沖縄地区会議学術講演会 「持続可能な地域の強靱化と将来空間像～防 災・減災対策の次なるステージを目指して～」
11月3日（水・祝） 13：30～17：00	オンライン開催	北海道地区会議学術講演会 「コロナ・ポストコロナ時代の社会課題の解決 に向けて－記録・国際協力・情報技術－」
11月5日（金） 10：30～12：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「進化・発生・メカニカルストレスから探る顎 顔面形成・維持機構最先端」
11月6日（土） ※オンデマンド形 式：11月30日（火） まで公開	オンライン開催	公開シンポジウム 「幼小児期・若年期からの生活習慣病予防」
11月11日（木） 13：00～17：00	オンライン開催	学術フォーラム 「カーボンニュートラル社会を支える最先端 分析技術」

公開シンポジウム

健康栄養教育を担う 管理栄養士の役割

主催／日本学術会議 健康・生活科学委員会 家政学分科会

後援／日本生命科学アカデミー

開催趣旨

2002年(平成14年)施行の栄養士法では、管理栄養士の資質として「ものから人へ」から「対人専門職」に見直され、教育内容が食べ物を扱う分野(食品学・調理学など)から医学関連知識や臨床栄養学分野を重視した内容に改正されました。

健康・生活科学委員会 家政学分科会では、この改正の実施から20年経過した現在、改正内容が社会のニーズに合致した管理栄養士の養成につながっているか検証を行いました。その結果、管理栄養士の資格を有する多くの人材が毎年、輩出されていますが、生活習慣病を予防し、健康で充実した生活を支援するための活動の場は十分に確保されていないと評価しました。

そこでこれらの課題を踏まえ、健康・生活科学委員会 家政学分科会から提言として「健康栄養教育を担う管理栄養士の役割」を令和2年(2020年)7月27日に表出しました。疾病予防に寄与できる管理栄養士の活躍の場の必要性和、管理栄養士の資質の向上のための教育内容の見直しが骨子となっています。提言の項目立てを以下に示します。

提言

(1)社会的ニーズに対応する管理栄養士活動の広がり必要性

- ①大学生・一般社会人への健康栄養教育の対応
- ②職場での管理栄養士の活用

(2)管理栄養士の資質の向上

- ①一般社会人への健康栄養教育の資質
- ②大学院教育及び管理栄養士養成のための指導者の育成

詳細は、学術会議のHPに掲載されております。

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t291-5.pdf>

提言の内容を知っていただき、管理栄養士の在り方、その教育内容について関係行政機関、教育機関に対し、現代社会の健康栄養教育を担う管理栄養士の役割を課題として共有化していただくことを目的としてシンポジウムの開催を計画いたしました。

シンポジウム開催の形式は、全国の多くの関係機関の方々に参加していただくためにオンラインを予定しております。

日時

令和3年10月16日(土)
13:30~17:00

場所

オンライン開催  ONLINE

参加費無料

申し込みは
こちらから

10月11日(月)までにお申し込み下さい。

<https://forms.gle/WAG4EafQJbCRnjBo9>



PROGRAM

司会 鈴木 恵美子(日本学術会議連携会員／お茶の水女子大学名誉教授)

13:30	挨拶 杉山 久仁子(日本学術会議第二部会員／横浜国立大学教育学部教授)
13:35	「提言にあたって」 小川 宣子(日本学術会議連携会員／中部大学応用生物学部教授)
14:05	「我が国の栄養問題の変遷と管理栄養士の役割」 中村 丁次(神奈川県立保健福祉大学学長／公益社団法人日本栄養士会会長／一般社団法人日本栄養学教育学会理事長)
14:45	「管理栄養士教育にどのようにして実践知を取り入れるかー実践の視点からー」 榎本 眞理(愛知学院大学心身科学部教授)
15:25	「これからの管理栄養士の役割と教育養成への期待」 清野 富久江(厚生労働省健康局健康課栄養指導室室長)
16:05	(休憩)
16:15	全体討議
16:55	閉会の辞 守随 香(日本学術会議連携会員／共立女子大学家政学部教授)

問い合わせ先

池田 彩子(日本学術会議連携会員／名古屋学芸大学管理栄養学部教授)

E-mail: saiko@nuas.ac.jp





日本学術会議公開シンポジウム「教育データの利活用の動向と社会への展開」

開催概要

日本学術会議から「教育のデジタル化を踏まえた学習データの利活用に関する提言」が2020年9月末に公開された。本シンポジウムでは、本提言の啓発活動を行うとともに、教育データの収集と分析（ラーニングアナリティクス）に関する政策関係者並びに研究者を招き、教育データの利活用における課題や今後の方向性について議論する。

イベント詳細

日時：2021年10月17日（日）13:00～17:00

場所：オンライン開催

参加費：無料

事前申し込み： 必須

申込 URL：<https://forms.gle/uh7p7H7XmVnDwED99>

申込期限：2021年10月16日（土）12:00

主 催：日本学術会議 情報学委員会・心理学・教育学委員会合同 教育データ利活用分科会

プログラム（予定）

司会：緒方 広明 （日本学術会議 特任連携会員、教育データ利活用分科会幹事、京都大学 学術情報メディアセンター教授）

13:00開会

楠見 孝 （日本学術会議 連携会員、教育データ利活用分科会副委員長、京都大学 大学院教育学研究科教授）

13:10基調講演 1

美濃 導彦 （日本学術会議第三部会員、教育データ利活用分科会委員長、国立研究 開発法人 理化学研究所理事）

13:30基調講演 2

浅野 大介氏 (経済産業省 商務・サービスグループ サービス政策課長・教育産業室長、デジタル庁統括官付参事官)

13:50基調講演 3

桐生 崇氏 (文部科学省大臣官房文部科学戦略官・総合教育政策局教育DX推進室長)

14:10基調講演 4

白水 始氏 (国立教育政策研究所 総括研究官)

14:30基調講演 5

吉田 文氏 (早稲田大学 教育・総合科学学術院 教授)

14:50休憩

(10 分)

15:00研究事例紹介 (先端的な教育データの利活用の研究を紹介)

(各 10 分×4 件)

- ・福本 巧氏 (神戸大学大学院医学研究科 教授)
- ・隅谷 孝洋氏 (広島大学 情報メディア教育研究センター 准教授)
- ・桑名 良幸氏 (京都教育大学附属桃山小学校 副校長)
- ・埼玉県教育委員会 (内諾済、発表者検討中)

15:40パネル討論 (テーマ・教育データの利活用の将来について考える)

(各 10 分×本分科会から4 件)

パネリスト

- ・江村 克己 (日本学術会議 連携会員、日本電気株式会社 NEC フェロー)
- ・中山 迅 (日本学術会議 連携会員、宮崎大学大学院教育学研究科教授)
- ・前田 香織 (日本学術会議 連携会員、広島市立大学大学院情報科学研究科教授)
- ・宮地 充子 (日本学術会議第三部会員、大阪大学大学院工学研究科教授、北陸先端科学技術大学院大学教授)

全体討論

- ・モデレータ：柴山 悦也 (日本学術会議第三部会員、教育データ利活用分科会幹事、東京大学情報基盤センター教授)

17:00閉会

谷口 倫一郎 (日本学術会議第三部会員、教育データ利活用分科会幹事、九州大学理事・副学長)



連絡先

緒方 広明

京都大学学術情報メディアセンター

教育支援システム研究部門

学術データアナリティクス研究分野 (緒方研究室)

TEL:075-753-9052

E-mail:contact@let.media.kyoto-u.ac.jp

パンデミックに 世界はどう立ち向かうのか

～国際連携の必然性と可能性～

2021年10月23日(土)13:30～17:00(オンライン開催)



COVID-19

国境を超えて進展するグローバリゼーションにより、瞬く間に世界に広がった新型コロナウイルス。そうであれば、パンデミックの収束(終息)には国境を超える連携が不可欠です。本フォーラムでは、ワクチンや治療薬の共同開発、新たな知見・情報の収集や共有、格差や差別の解消にむけた政治や支援の取組みについて、多様な領域の現状や課題を明らかにし、パンデミックの収束(終息)にむけた国際連携の可能性を考えます。

司会・挨拶：日比谷潤子(日本学術会議第一部幹事)
趣旨説明：和氣純子(日本学術会議第一部会員)

「感染症危機をめぐる国際政治と連携」

詫摩佳代(東京都立大学法学部教授)

「WHOにおける国際連携の最前線」

モイ メンリン(東京大学大学院医学系研究科教授)

「接触アプリに関する新展開と国際連携」

川原圭博(東京大学大学院工学系研究科教授)

「ビッグデータ活用に関する新展開と国際連携」

森 健策(名古屋大学大学院情報学研究科教授)

まとめ・閉会挨拶：望月真弓(日本学術会議副会長)

主催：日本学術会議

共催：パンデミックと社会に関する連絡会議

参加フォーム：<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>



連続公開シンポジウム

第一回

生命科学分野におけるジェンダー・ダイバーシティ —大学における女性リーダーから見た課題と展望—

総合司会 熊谷 日登美 (日本学術会議第二部会員・日本大学生物資源科学部教授)

13:00～13:05 主催者挨拶

望月 眞弓 (日本学術会議副会長・慶應義塾大学名誉教授)

13:05～13:15 主賓挨拶

松尾 泰樹 (内閣府科学技術・イノベーション推進事務局長)

林 伴子 (内閣府男女共同参画局局长)

13:15～13:25 趣旨説明

小松 浩子 (日本学術会議第二部会員・日本赤十字九州国際看護大学学長)

13:25～14:10 基調講演

「高等教育機関におけるDiversity・Equity・Inclusionの実践 ～真の男女共同参画の実現に向けて～」

室伏 きみ子 (前お茶の水女子大学学長・内閣府男女共同参画推進連携会議議長)

座長 平井 みどり (日本学術会議連携会員・兵庫県赤十字血液センター所長)

14:15～15:55 シンポジウム

生命科学系の大学における女性研究者、リーダー(学長)の活動、課題、意義など

14:15～14:35

「国立大学の学長をめぐる諸問題」

長谷川 眞理子 (総合研究大学院大学学長)

座長 杉山 久仁子 (日本学術会議第二部会員・横浜国立大学教育学部教授)

14:35～14:55

「看護系大学の急増とリーダー(学長、学部長等)のジェンダー・ダイバーシティ課題と挑戦」

南 裕子 (日本学術会議連携会員、神戸市看護大学副理事長・学長)

座長 新福 洋子 (日本学術会議連携会員・広島大学大学院医系科学研究科教授)

14:55～15:15

「地方の公立大学からジェンダー・ダイバーシティを考える」

西澤 直子 (石川県立大学学長)

座長 篠原 美紀 (日本学術会議連携会員・近畿大学農学部教授)

15:15～15:35

「発展する大学の中で学生・教職員がハッピーになるために」

宮田 興子 (神戸薬科大学学長)

座長 市川 哲雄 (日本学術会議第二部会員・徳島大学大学院医歯薬学研究部教授)

15:35～15:55

「女性医師の活躍と医師の働き方改革」

林 由起子 (日本学術会議連携会員、東京医科大学学長)

座長 高橋 素子 (日本学術会議連携会員・札幌医科大学医学部教授)

16:00～16:30 パネルディスカッション

司会 小松 浩子 パネリスト 基調講演者及び講演者6名

閉会挨拶 熊谷 日登美

ウェブ開催

10/28 (木)

13:00 - 16:30

参加費無料

事前参加申込期限：10月26日

どなたでも参加できます。

<https://forms.gle/5u7sjeKKXPaw8ffJ8>



後援：文部科学省、内閣府男女共同参画局
国立研究開発法人科学技術振興機構
公益社団法人日本薬学会
一般社団法人日本看護学会協議会
一般社団法人日本医学会連合
一般社団法人日本歯科医学会連合
一般社団法人日本農学会
生活科学系コンソーシアム
生物科学学会連合
日本生命科学アカデミー
日本農学アカデミー
男女共同参画学協会連絡会
全国ダイバーシティネットワーク



お問い合わせ：熊谷 日登美 E-mail: SCJ25.Symposium@gmail.com

日本学術会議東北地区会議主催公開学術講演会

災害と文明 —災害に対する 社会の対応—

日 時

令和 3 年
10 月 30 日(土)
【13:30～16:30】

オンライン開催〈参加無料〉

参加申込
方法

参加を希望される方は、**10/24 (日)**
までに下記URLまたは右の QR コー
ドより事前申込をお願いします。定員
になり次第、事前申込みの受付は終了
します。



<https://forms.gle/hXimXds5LhpUyjcK6>

開催趣旨

東日本大震災から10年が経過した。福島原発災害による「現代文明への信頼喪失」は広い範囲に及び、その分析と反省から様々な提言がなされてきた。

また、一昨年末に出現した新型コロナウイルス感染症は、世界中を混乱に陥れ、未だに終息の道筋は不透明である。これらは、単に自然界の変化によって起こる災害、すなわち「天災」で済ますべき問題ではなく、文明が進んだこと等による人為的災害、すなわち「人災」という側面からも考えていく必要がある。

本講演会では、地震学、農学、ウイルス学の専門家から「過去から学び取ること」、「今、分かっていること」、「復興への提案」を伺い、歴史を踏まえ、今後このような「人災」ともいえる「災害」にどのように取り組んでいくかを参加者とともに考えたい。

次 第

司会進行

高井 伸二（日本学術会議東北地区会議会員、北里大学名誉教授）

1. 開会挨拶 ————— 13:30

日本学術会議副会長 望月 眞弓

佐藤 嘉倫（日本学術会議東北地区会議代表幹事、東北大学大学院文学研究科教授、京都先端科学大学人文学部学部長・教授）

2. 講演 ————— 13:40

第一部 東日本大震災から10年

1 鎌田 浩毅（京都大学レジリエンス実践ユニット特任教授・京都大学名誉教授）

南海トラフ巨大地震・富士山噴火・首都直下地震に
備える

2 小山 良太（日本学術会議東北地区会議連携会員、福島大学農学群食農学類農業経営学教授）

被災地域農業再編と創造的復興：
新たなフードシステムのデザイン

第二部 歴史に学ぶ：ヒトの移動に伴う感染症の移動

3 加藤 茂孝（保健科学研究所学術顧問）

人類と感染症の歴史に学ぶ

4 水谷 哲也（東京農工大学附属感染症未来疫学研究センター長・教授）

新型コロナウイルスの生存戦略は巧みだ：
変異ウイルス出現と今後の対応

5 渡辺 登喜子（大阪大学微生物病研究所教授）

エボラ制圧を目指して：
シエラレオネにおける研究とワクチン開発

3. 質疑応答 ————— 16:10

4. 閉会挨拶 ————— 16:30

高井 伸二（日本学術会議東北地区会議会員、北里大学名誉教授）

お問い合わせ先

東北大学研究推進課
TEL: 022-217-4840
E-mail: kenkyo@grp.tohoku.ac.jp

主 催：日本学術会議東北地区会議

共 催：東北大学

後 援：公益財団法人日本学術協力財団、北里大学獣医学部、京都大学レジリエンス実践ユニット、福島大学、東京農工大学、大阪大学微生物病研究所

主催 日本歴史学協会 日本学術会議史学委員会・同中高大歴史教育に関する分科会
後援 高大連携歴史教育研究会
歴史教育シンポジウム：歴史総合をめぐって (5)

「歴史総合」の教科書をどう作ったか

2021年10月30日(土曜日)午後1時30～17時30分 予定

オンライン開催・参加費無料・先着受付 (300名まで)

下記ウェブサイトまたは右のQRコードよりお申し込みください (〆切10月28日)
登録された方には、シンポジウムの前日、ZoomのURLとレジュメをお送り致します。

<https://forms.gle/J8mzAH6kRdUmJrxs9>



プログラム

開会挨拶

若尾政希 一橋大学教授・日本学術会議会員・日本歴史学協会委員長

趣旨説明

君島和彦 東京学芸大学名誉教授・日本学術会議連携会員

司会

中野 聡 一橋大学学長・日本学術会議連携会員

報告

成田龍一 日本女子大学名誉教授

歴史的実践としての「歴史総合」のために (仮題)

川手圭一 東京学芸大学副学長

「歴史総合」の構想と教育現場をつなぐもの (仮題)

廣川みどり 千葉県立袖ヶ浦高等学校教諭

「歴史総合」でできること、為すべきこと
—高校現場で考える—

コメント

長志珠絵 神戸大学教授・日本学術会議連携会員

閉会挨拶

栗田禎子 千葉大学教授・日本学術会議会員

日本学術会議史学委員会と日本歴史学協会は2016年以来、「歴史総合」に関してシンポジウムを開催してきた。2016年12月の中教審答申で「歴史総合」の設置が答申され、2018年3月に必修科目「歴史総合」と選択科目「日本史探究」・「世界史探究」の学習指導要領が告示された。「歴史総合」は、2020年度に教科書検定が行われ、2021年度に教科書採択も実施された。そして、「歴史総合」の授業が2022年4月から始まる。このような状況を受けて、2021年の歴史教育シンポジウムでは、「歴史総合」の教科書の執筆に関わった方々で、研究分野が日本史の方、外国史の方、高等学校で世界史の授業を担当されている方に報告を依頼した。「歴史総合」の教科書も完成したことを受けて、「歴史総合」をどう構想したかを再検討してみたい。

公開シンポジウム

子ども政策の総合化について考える

本シンポジウムでは、教育・福祉・医療などの縦割り行政を架橋する子ども政策を打ち立てている地方自治体や、子育て支援を展開するNPO法人の実践・成果・課題を紹介し、子どもの成長発達にかかわる政策立案における今後の検討課題を明らかにします。それにより「子ども政策の総合化」の重点を明確にするとともに、そのための体制等について具体的に検討・構想するための手がかりを共有します。

縦割り行政を架橋する「横の連携」はもちろん、出産・乳幼児保育から義務教育までの期間のみならず、高等学校や大学・専門学校などの高等教育機関への進学への支援、さらにはその後の就職の支援に至るまでの「縦の接続」を整備する必要性と重要性について共に考えます。

日程

2021年 10月31日 日

時間

14:00～17:00（開場13:30）



オンライン開催

P R O G R A M	【司会】	勝野 正章（日本学術会議会員 東京大学教授）
	【開会挨拶】	遠藤 利彦（日本学術会議会員 東京大学教授）
	【説明】	「子ども政策の現状と動向」 秋田 喜代美（学習院大学教授 東京大学名誉教授）
	【講演1】	「東京都の子供政策と東京都こども基本条例について」 梶原 洋（東京都副知事） 【コメント】一場 順子（弁護士・日弁連子どもの権利委員会幹事）
	【講演2】	「福祉と教育のはざままで子どもの成長を見守る」 荘保 共子（NPO法人子どもの里 理事長） 【コメント】岡部 美香（日本学術会議会員 大阪大学教授）
	【指定討論】	「子ども政策の総合化の意義と課題」 小玉 重夫（日本学術会議連携会員 東京大学教授）
	【閉会挨拶】	浅井 幸子（日本学術会議連携会員 東京大学教授）

参加費無料

オンライン開催

定員 500名

事前申込制



お申し込み

事前参加登録をお願いします。

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/event/35507/>

参加申込への自動返信メールにて、当日のZoomのURLをご案内致します。
届かない場合は迷惑メールフォルダをご確認の上、下記よりお問い合わせください。



お問い合わせ

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/contact-20210910symposium/>

※お返事までにお時間をいただく場合がございます。あらかじめご了承ください。

【主催】日本学術会議心理学教育学委員会 排除・包摂と教育分科会

日本学術会議心理学教育学委員会 乳幼児発達・保育分科会

【共催】東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター（Cedep）





学術講演会

持続可能な地域の強靱化と将来空間像

～ 防災・減災対策の次なるステージを目指して ～

自然災害が多発する今日、防災・減災対策の次なるステージを目指し、安全・安心で持続可能な地域社会・地域空間を形成するための強靱化やまちづくりの方向性、そして長期的な視点に立った将来的な国土・地域空間のあるべき姿について議論を行います。

〈開催日時〉

令和3年

11/1月

14時00分～16時10分

〈開催方式〉

オンライン開催
(Zoom)

参加
無料

どなたでもご参加
いただけます

へ
プ
ロ
グ
ラ
ム

① 開会挨拶 (14:00 ～ 14:10)

日本学術会議 副会長 菱田 公一、大分大学 総括理事 津村 弘

② 情報提供 (14:10 ～ 14:35)

気象庁大分地方気象台 台長 宮下 誠

③ パネルディスカッション (14:35～ 16:05)

「議題: 持続可能な地域の強靱化と将来像」

◎登壇予定者/ 国土交通省九州地方整備局大分河川国道事務所 所長 樋口 尚弘

大分県土木建築部 審議監 豊田 源太郎

佐伯市防災局防災危機管理課 課長 野崎 弘和

大分合同新聞社 上席執行役員・編集局長 小田 圭之介

◎コーディネーター/ 大分大学 減災・復興デザイン教育研究センター長 小林 祐司

◎コメンテーター/ 気象庁大分地方気象台 台長 宮下 誠

◎コメンテーター/ 大分大学 経済学部教授 宮町 良広(日本学術会議連携会員)

大分大学 医学部教授 三重野 英子(日本学術会議連携会員)

④ 閉会挨拶 (16:05 ～ 16:10)

九州・沖縄地区会議 代表幹事 玉田 薫(日本学術会議第三部会員、九州大学主幹教授・副学長)

参加申し込みはこちらから

このQRコードを読み取ることで
情報を取得することができます。



①上記のQRコードを読み取る。

②必要事項を入力の上、「送信」
ボタンをクリック。

③後日、ZoomのURLをお知らせ。

※入力いただいたメールアドレスへお知らせ
メールをお送りします。

新型コロナウイルス感染症は国内社会・国際社会の様々な問題を浮き彫りにし、過去から未来に至る人類社会の変容と課題を考える機会となった。本学術講演会ではそれらの課題の中で、特に感染症に関する経験を未来に伝えるための記録作成・保存、世界保健機関(WHO)の活動など国際協力の在り方、感染症への有効な対応や行動変容を含むポストコロナ時代の社会課題解決に資する情報技術を取り上げ、議論する。

コロナ・ポストコロナ時代の 社会課題の解決に向けて

記録・国際協力・情報技術



オンライン開催

開催日時

令和3年 11月3日(水)
13:30~17:00

事前参加申込制 参加費無料

どなたでも参加いただけます

プログラム

《開会挨拶》

《講演》 飯島 渉(日本学術会議連携会員、青山学院大学文学部教授)
「感染症をめぐる資料をどう残すか？」

詫摩 佳代(東京都立大学法学部教授)
「新型コロナとグローバルヘルスガバナンスの課題」
※事前収録によるビデオ講演

川村 秀憲(北海道大学大学院情報科学研究院教授)
「ポストコロナ社会に向けて 一人工知能最前線と応用事例一」

萩田 紀博(日本学術会議第三部会員、大阪芸術大学芸術学部アートサイエンス学科教授)
「ポストコロナ社会の行動様式を変革するサイバネティックアバターとは？
—ムーンショット目標1がめざす未来社会—」

《総合討論》 座 長: 宇山 智彦(日本学術会議第一部会員、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)
パネリスト: 飯島 渉、川村 秀憲、萩田 紀博、
宮崎 千穂(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター非常勤研究員)

《閉会挨拶》

《司会進行》 大場みち子(日本学術会議第三部会員、公立はこだて未来大学教授)

申込方法

参加を希望される方は、11月1日(月)までに下記URL
又は右のQRコードより申込みをお願いします。

(定員となり次第、受付は終了します。)

[https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?](https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb)
[MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb](https://hokudai.webex.com/hokudai/onstage/g.php?MTID=e6c3416211e39fcc2cc1ddf4b76140fb)



お問い合わせ先

日本学術会議 北海道地区会議事務局

(北海道大学 研究推進部 研究振興企画課内)

Tel: 011-706-2155・2166/Fax: 011-706-4873

e-mail: suishin*general.hokudai.ac.jp

(上記mailアドレスの*マークを@に変えてお送りください。)

※新型コロナウイルス感染症の状況次第では、延期、中止又は開催方法の変更等の措置をとる場合があります。

主 催 日本学術会議歯学委員会 臨床系歯学分科会

共 催 公益社団法人 日本矯正歯科学会

公開シンポジウム

「進化・発生・メカニカルストレスから探る 顎顔面形成・維持機構最先端」

令和3年11月5日(金)

10:30~12:30

オンライン視聴は
こちらのHPから可能です



※分科会の開催はありません。

開催趣旨

将来に向けて、口腔科学研究をより迅速に展開し、科学的な基盤に立脚した新たな歯科臨床を構築するためには、改めて顎顔面の形成・維持機構を再考して咀嚼器官の成立過程の時間的・機能的な変化とメカニズムの理解を深めることが重要です。重力の働く地球上に誕生した全ての生物の進化や生体組織のリモデリングには、力学的な刺激(メカニカルストレス)が常に影響を及ぼすために、骨格形成の進化的理解とともに哺乳類の骨格維持機構の理解が必要です。さらに、我国における健康長寿社会の推進には、すべてのライフステージにおける顎顔面の形態と機能の維持が不可欠です。そのためには、骨格、特に顎顔面骨、の進化的理解とメカニカルストレスを基盤とし、その形成・維持機構の理解を深めて、エビデンスに基づいた治療を創出することが重要です。このようなアプローチは、荷重を治療の手段として用いている現在の矯正歯科の診断や治療にも有用であり、大切なヒントを与えてくれます。

次 第

開会挨拶

市川 哲雄先生(日本学術会議会員歯学委員会委員長、徳島大学大学院医歯薬学研究部 口腔顎顔面補綴学分野 教授)

基調講演

講 師

倉谷 滋先生

日本学術会議連携会員、理化学研究所開拓研究本部 倉谷形態進化研究室 主任研究員

座 長

井関 祥子先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子発生学分野 教授

榎 宏太郎先生

昭和大学歯学部 歯科矯正学講座 教授

シンポジウム

講 師

中島 友紀先生

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子情報伝達学分野 教授

上岡 寛先生

岡山大学 学術研究院医歯薬学域 歯科矯正学分野 教授

座 長

山口 朗先生

日本学術会議連携会員、東京医科歯科大学名誉教授
東京歯科大学口腔科学研究センター 客員教授

森山 啓司先生

日本学術会議連携会員、
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面矯正学分野 教授

総合討論

後 援：日本生命科学アカデミー

日本学術会議・日本学校保健学会第67回学術大会
市民公開シンポジウム

幼小児期・若年期からの 生活習慣病予防

令和3年 **11**月**6**日(土) 公開

インターネット配信・オンデマンド形式、公開期間:令和3年11月30日(火)まで
詳細についてはこちら▶<http://web.apollon.nta.co.jp/jash67/simin.html>



QRコードからアクセス

参加無料・申込不要

座長 八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学教授、日本学術会議連携会員)
佐藤 祐造 (名古屋大学名誉教授、健康評価施設査定機構理事長)

1) 開会あいさつ

磯 博康 (大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生学教授、日本学術会議会員)

2) 概要説明

わが国における生活習慣病予防対策-日本学術会議のこれまでの取り組み

八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学教授、日本学術会議連携会員)

3) シンポジスト

保健教育における生活習慣病予防：その内容に関する歴史的検討と国際比較

高橋 浩之 (千葉大学教育学部教授)

子どもの「生活とからだ」を軸にして学ぶ保健の授業：小学校での生活習慣病の授業から

鎌田 克信 (東北福祉大学総合福祉学部福祉心理学科講師)

小中学生を対象とした生活習慣病予防のための健康副読本教育

～多機関が協働する、茨城県筑西市・秋田県井川町における副読本活用事業の紹介～

佐田 みずき (慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学助教)

4) 閉会にあたって

佐藤 祐造 (名古屋大学名誉教授、健康評価施設査定機構理事長)

※事後アンケートへのご協力をお願い申し上げます。



学会全般に関するお問い合わせ：株式会社ブランドウ・ジャパン（運営事務局）

TEL: 03-5470-4401 FAX: 03-5470-4410 E-mail: jash67@nta.co.jp

内容に関するお問い合わせ：八谷 寛 (名古屋大学大学院医学系研究科国際保健医療学・公衆衛生学)

TEL: 052-744-2128 E-mail: h828@med.nagoya-u.ac.jp

主催：日本学術会議健康・生活科学委員会・臨床医学委員会合同生活習慣病対策分科会

日本学校保健学会第67回学術大会

カーボンニュートラル社会を支える最先端分析技術



2021年 11月11日(木)13:00-17:00

主催 日本学術会議

共催 日本分析化学会、日本化学会、日本工学アカデミー、日本分析機器工業会

総合司会： 佐藤 緑 産業総合技術研究所 総括研究主幹

13:00 開会のご挨拶

谷口 功 分析化学分科会委員長
国立高等専門学校機構理事長

13:15 基調講演

カーボンニュートラルに向けた技術課題

秋元圭吾 地球環境産業技術研究機構RITEグループリーダー

13:45 第一部：エネルギー課題

講演 1 再エネ技術開発における分析化学
グリーン水素用水分解光触媒の開発と分析化学
堂免一成 信州大学教授・東京大学特別教授

14:10 講演 2 省エネ技術開発における分析化学

無磁場STEMによる磁性材料・デバイス解析
柴田直哉 東京大学教授

14:35 講演 3 蓄エネ技術開発における分析化学

Na/Kイオン二次電池の材料開発と放射光解析
駒場慎一 東京理科大学教授
久保田圭 東京理科大学准教授

15:00 第一部まとめ：学術（分析化学・分析科学技術）
の役割と使命の観点から
加藤昌子 関西学院大学教授

15:15-15:25 休憩

15:25 第二部：環境課題

講演 4 リモートセンシングシステム
LIDARによる大気中CO₂分布測定
柴田泰邦 東京都立大学准教授

15:50 講演 5 環境分析機器開発

海洋マイクロプラスチックの高速検出とAI自動分類
北橋 倫 海洋研究開発機構

16:15 第二部まとめ：学術会議の役割と使命：社会への情報
発信に向けて

北川尚美 化学委員会副委員長 東北大学教授

16:25 パネルディスカッション

モデレーター：玉田 薫 九州大学教授

「エネルギー・環境技術開発において求められる最先端
分析技術、AIの活用は？」

16:55 閉会のご挨拶

茶谷直人 学術会議化学委員会委員長 大阪大学教授

17:00 閉会

参加申込方法



参加を希望される方は 11月10日(水)
までに下記URLまたは右のコード
により事前申込をお願いします。
<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>
お問い合わせ：日本学術会議事務局企画課
学術フォーラム担当
電話番号 03-3403-6295